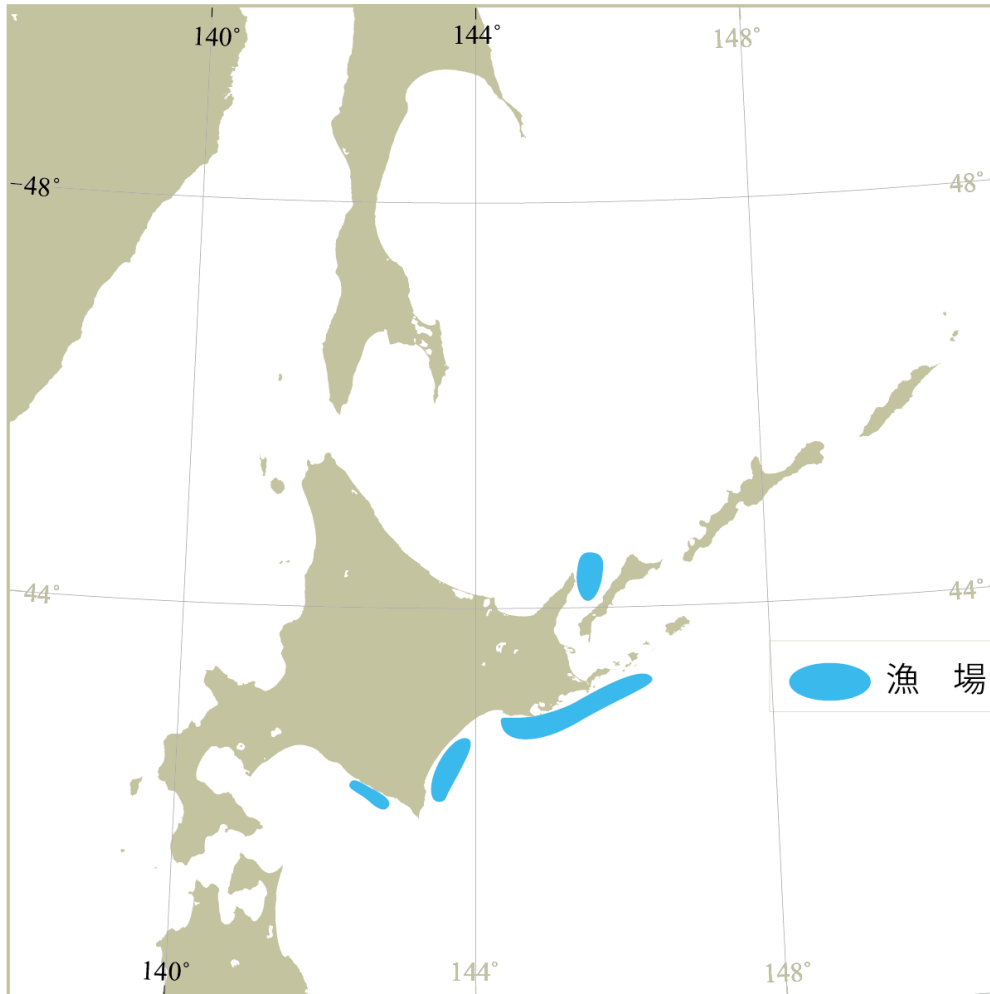




ホッケ

根室海峡・道東・日高・胆振
令和4年度資源評価結果

生物学的特性

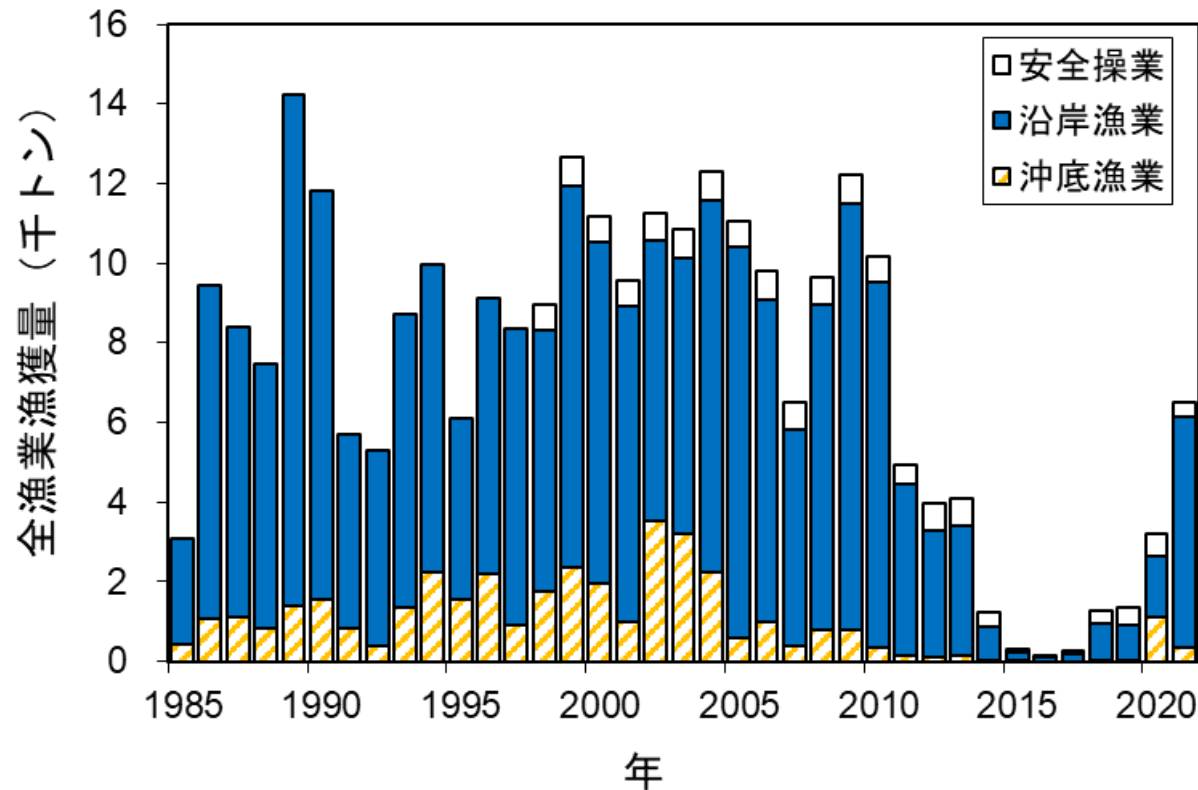


生物学的特性

- 寿命：10歳を超える
- 成熟開始年齢：雌は2歳（約30%）、3歳（約100%）
- 産卵期・産卵場：
10月中～11月中旬（知床半島先端海域）。産卵場は日高、知床半島先端海域など
- 食性：
仔魚期はカイアシ類
未成魚期はヨコエビ類
岩礁周辺に定着し始めると、
魚類、魚卵、イカ類、エビ類、
ヨコエビ類、オキアミ類など
- 捕食者：不明

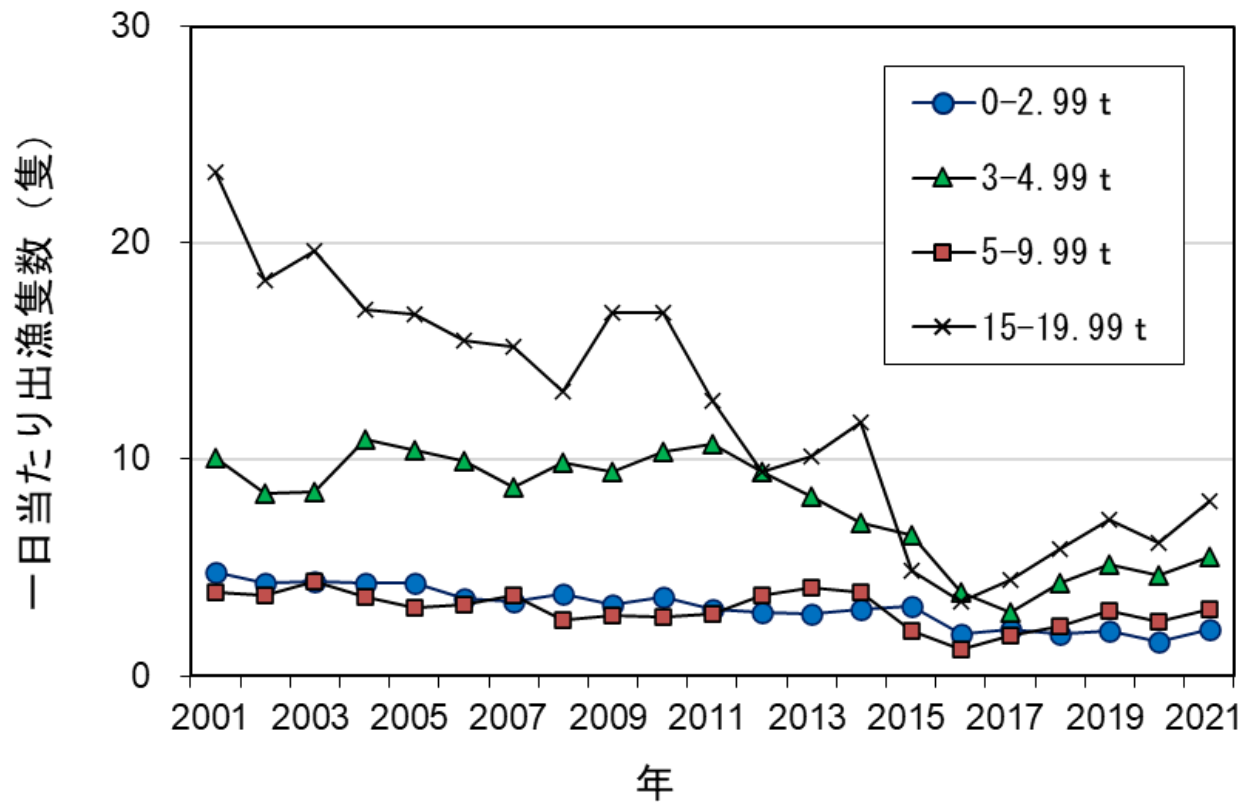
- 主漁期は、春の索餌期と秋の産卵期

漁獲の動向①



- 安全操業を除く漁獲量 2021年：6,134トン（2020年：2,640トン）
- 沿岸漁業（刺網、定置網など）の割合が高い（約6～9割）
- 2020年に沖合底びき網漁業（沖底）の漁獲量が急増し、2021年は沿岸漁業の漁獲量が急増した

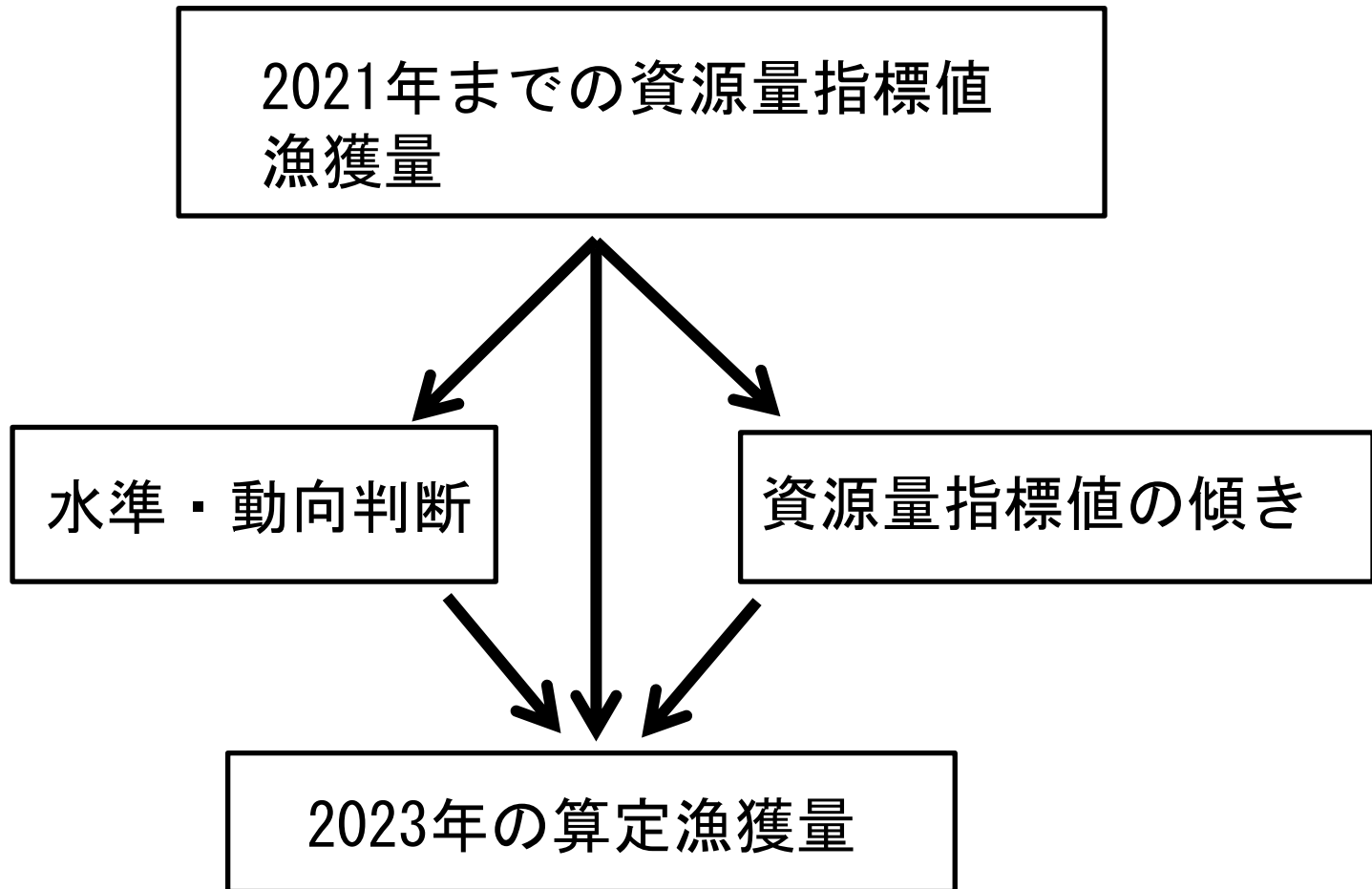
漁獲の動向②



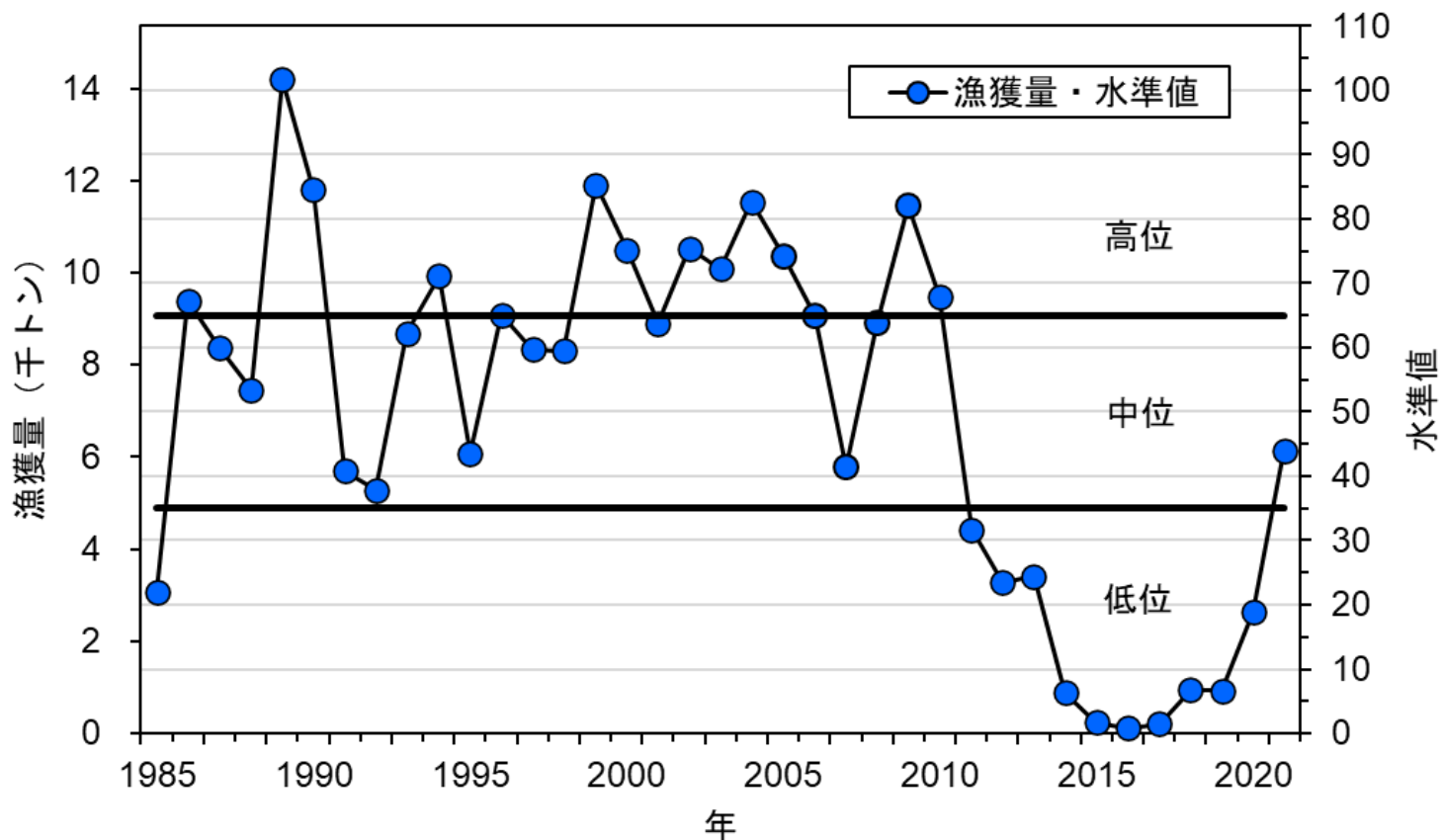
- 羅臼漁協所属の刺網漁船（例年漁獲の大半を占める）のトン数階層別一日当たり出漁隻数は、2016年まで減少傾向で推移、その後は横ばい

※一日当たり出漁隻数：のべ出漁隻数を出漁日数で除したものの

資源評価の流れ



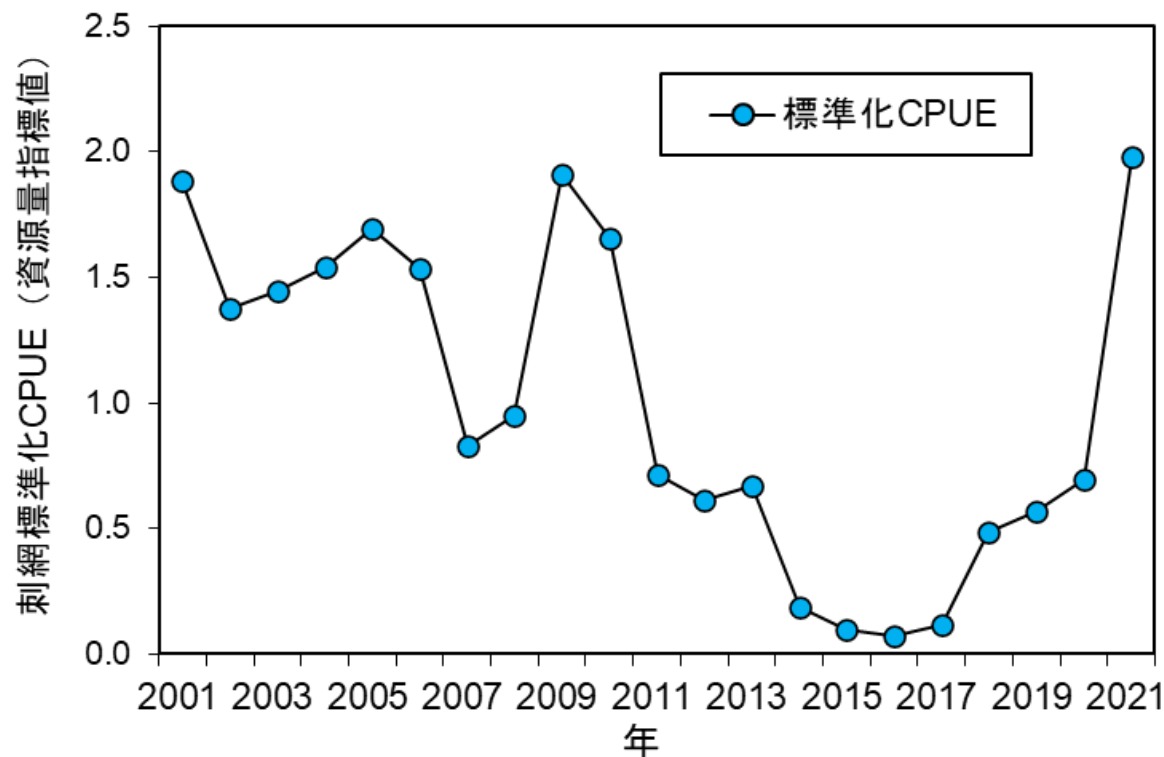
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：資源水準値35、中位／高位：資源水準値65
(1985年以降の漁獲量(安全操業除く)の平均値を50とし、各年の漁獲量の値を指数として算出)

● 資源水準：2021年の資源水準値は 44であり「中位」

資源の動向②



- 2001年以降の羅臼漁協所属の刺網の標準化CPUEを資源量指標値として用いた
- 資源動向：直近5年間（2017～2021年）の資源量指標値の推移から「増加」

※標準化CPUE：のべ出漁隻数当たりの漁獲量をCPUE（単位努力量当たり漁獲量）とし、漁船のトン数階層などを説明変数とする一般化線形モデルにより標準化したCPUE

資源評価のまとめ

- 資源水準は「中位」、動向は「増加」
- 漁獲量（安全操業除く）と羅臼の刺網漁業の標準化CPUEに基づいて資源状態を判断した

2023年算定漁獲量

管理基準	Target/ Limit	2023年 算定漁獲量 (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの 増減%）
0.9・Cave3-yr・1.65	Target	3,850	-	-
	Limit	4,820	-	-

- ABC算定規則の2-1) に従い $Limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.9 (Cave3-yrを使用し、かつ中位水準である場合の推奨値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間 (2019~2021年) の平均漁獲量)
- γ_1 : 1.65 (資源量指標値の変動で求まる係数)